

第2分科会

子どもの貧困 ～子ども食堂の取組～

概要

全国的に広がりを見せる「子ども食堂」は、子どもや保護者が地域住民と繋がることによって、子どもや保護者の孤立感の解消、多様な価値観との触れ合いなど、様々な効果が期待されている。宮城県内の子ども食堂の実践を通じて、今後の子ども食堂のあり方を考える。

コーディネーター

栗林 知絵子（くりばやし ちえこ）氏

NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長。

東京都豊島区在住。

平成16年より池袋本町プレーパークの運営に携わる。

自他共に認める「おせっかいおばさん」で、地域のおせっかいさんを繋げ、子どもの居場所を点在化することを目指している。

要町あさやけ子ども食堂をはじめ、4軒の子ども食堂を運営。



略歴

民生委員・児童委員も務める。

著書等

『こども食堂をつくろう！～人がつながる地域の居場所づくり～』

著者：NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 発行：明石書店（2016年発行）

パネリスト

大橋 雄介 (おおはし ゆうすけ) 氏

NPO法人アスイク 代表理事
NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター理事
公益財団法人子ども貧困対策センターあすのば アドバイザー
全国子どもの貧困教育支援団体協議会 幹事
ユースソーシャルワークみやぎ 副代表幹事



略歴

昭和55年生まれ。福島県福島市出身、筑波大学卒業。
株式会社リクルートマネジメントソリューションズのコンサルタントとして、大手企業に対する組織開発のコンサルティングに従事。
平成22年3月に独立。
NPO法人せんだい・みやぎNPOセンターにてソーシャルビジネスの起業支援、ネットワーク形成プロジェクトを担う。
震災発生直後にアスイクを設立。

著書等

『3・11被災地子ども白書』(明石書店)等
日本青年会議所「人間力大賞」会頭特別賞

パネリスト

門間 尚子 (もんま しょうこ) 氏

せんだい子ども食堂 代表
性暴力被害女性支援チーム「mia forza」代表



略歴

大学卒業後、勤務の傍ら、平成12年より複数のNPO/NGOに所属し子どもと女性に寄り添う活動を行っている。
国・自治体・教育機関等で、性暴力・DV・デートDVなどの研修講師を担当。
現在最も力を入れている活動は「こども食堂」「性暴力被害者支援」「女子少年院出院者支援」。
平成28年2月に仲間とともに「せんだいこども食堂」を立ち上げ「おなかもこころもいっぱい」を合言葉に、仙台市内3ヶ所で活動中。

パネリスト

兼子 佳恵 (かねこ よしえ) 氏

特定非営利活動法人 石巻復興支援ネットワークやっぺす 代表理事
石巻市震災復興推進委員
石巻市都市計画審議会委員
石巻市協働教育推進委員
中央大学法学部非常勤講師等を兼任

**略歴**


昭和46年生まれ。

平成11年「イツツ・ナウ・オア・ネバー」という団体を設立し、子ども対象の環境教育活動のサポート、個別の子育ての悩みを聞く活動を始める。

平成21年2月団体名称を「環境と子どもを考える会」と改称。前進団体の活動に加えて子どもたちが笑顔になるイベントの開催、街づくりに問題提起する公演会等を企画運営。

現在の「石巻復興支援ネットワーク」は震災後、つなプロのメンバーと合同で立ち上げた。

大橋 雄介氏 資料



子どもの虐待防止推進全国フォーラムinみやぎ
第2分科会 子どもの貧困
 ～子ども食堂の取組～

NPO法人アスイク
 代表理事 大橋雄介

1

大橋 雄介

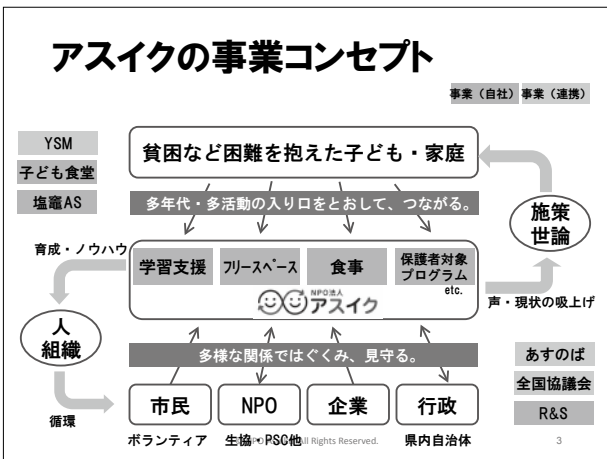
- NPO法人アスイク 代表理事
- NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター 理事
- 公益財団法人子どもの貧困対策センターあすのば アドバイザー
- 全国子どもの貧困教育支援団体協議会 幹事
- ユースソーシャルワークみやぎ 副代表幹事
- 元仙台市協働まちづくり推進委員 副委員長

略歴

- 1980年生まれ。福島市出身。
- リクルートマネジメントソリューションズのコンサルタントなどを経て、2010年3月に独立。
- 独立後、市民活動の先駆者である加藤哲夫氏と出会い、NPO法人せんだい・みやぎNPOセンターにてNPOや社会起業家の支援事業を手がける。
- 震災発生直後にアスイクを設立。
- 著書に「3・11被災地子ども白書」(明石書店)等。




2



3

多賀城こども食堂

- 「ケア付き」子ども食堂
- 2016年6月からみやぎ生協多賀城店で開催
- 開催頻度：週1回
- 対象：小学生～高校生年代+保護者
- 参加者数：30名/回程度
- 多賀城市役所、パーソナルサポートセンターなどの関係機関と連携



4

子ども食堂立ち上げ支援事業

- 宮城県社協、TEDIC、せんだいこども食堂とのコンソーシアムで運営
- 立ち上げ支援講座、フォローアップ講座を実施
- 2018年度は仙台、大崎、東松島、白石で開催



5

前提

- 虐待は、一部の異常な親がやること、糾弾すべきこと、ではなく、誰でも起こしうること。
- 当然、緊急性の高い虐待も存在する。
- 緊急性の高い虐待、誰にでも起こしうる虐待(マルトリートメント)、両面から捉える。
- 「子ども食堂」はひとまとめに語れない。
- 月2回程度、公民館で夜に開催していて、主に低年齢の子どもと保護者が利用する、無料の食事とだらんを提供するような子ども食堂を想定。

6

6

虐待対策に、子ども食堂が貢献できること

	子ども	保護者
緊急性の高い虐待	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 通告 ▲ ケース会議 	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 相談機関の紹介
誰でも起こしうる マルトリートメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気持ちの受け止め ・ 見守り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心のスペースづくり ・ 保護者同士のつながり

7

© NPO Asaku All Rights Reserved.

7

子ども食堂を虐待対策と捉えることへの懸念

- ・ 養育上の課題を抱える家庭の対応には、工数（時間）・専門性が必要。
Cf. 学習生活支援事業のソーシャルワーカー、疲弊の過去
- ・ 児童相談所に通告すれば良い、では済まないケースも。
Cf. 子どもや保護者が居場所を失うリスク
- ・ 子ども食堂への支援組織、チームアプローチが必要ではないか。


8

© NPO Asaku All Rights Reserved.

8

門間 尚子氏 資料

平成30年度「子どもの虐待防止推進全国フォーラムinみやぎ
第2分科会「子どもの貧困～子ども食堂の取組～」
子どもをひとりにしない、誰にでもできること
～はじめまして「せんだい子ども食堂」です！～



せんだい子ども食堂
代表 門間 尚子

1

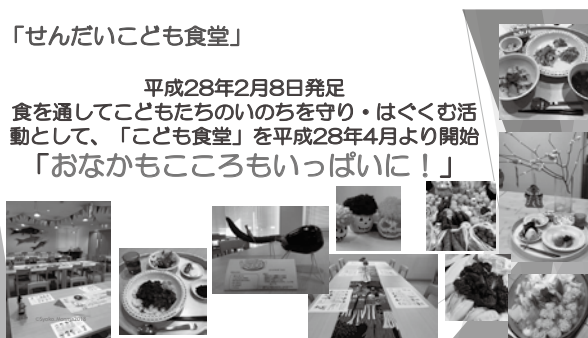
中学生・高校生の声

- ▶ 「生きる」意味がわからない。どうして生きなくちゃいけないの？
- ▶ 勉強は苦手だけど、みんなと高校へ行きたくて受験勉強を頑張って合格した。なのに、親は入学金を払ってくれなかった。中卒確定。もう、どうでもいい。
- ▶ 何をしたらいいのか、自分が何ができるのか、したいのかわからない。
- ▶ うちの母子家庭。兄弟も祖父母も親戚もいない。母が死んだら私はどうなるんだろう。。。
- ▶ 親は小さい頃にいなくなった。ずっとおじいちゃんとおばあちゃんが育ててくれた。おじいちゃんが亡くなって、おばあちゃんも元気がない。おばあちゃんが亡くなったら私も死にたい。
- ▶ みんなの家と同じように「仲良し家族」を振る舞うのに疲れた。両親は不仲で暴力は日常茶飯事。そんな家なのに友達に「遊びにおいでよ」なんて言えない。

2


「せんだい子ども食堂」

平成28年2月8日発足
食を通して子どもたちのいのちを守り・はぐくむ活動として、「子ども食堂」を平成28年4月より開始
「おなかもこころもいっぱい！」



3

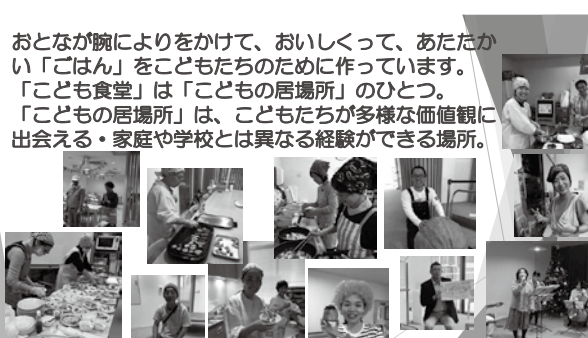
「子ども食堂」は、子どもがひとりでも安心して来られる食堂。バランスのとれた食事を無料または低価格で子どもへ提供し、子どもが思い思いに、ゆっくり時間を過ごせる場所です。



※宮城県内の子ども食堂の様子


4

おとなが腕によりをかけて、おいしくって、あたたかい「ごはん」を子どもたちのために作っています。
「子ども食堂」は「子どもの居場所」のひとつ。
「子どもの居場所」は、子どもたちが多様な価値観に出会える・家庭や学校とは異なる経験ができる場所。



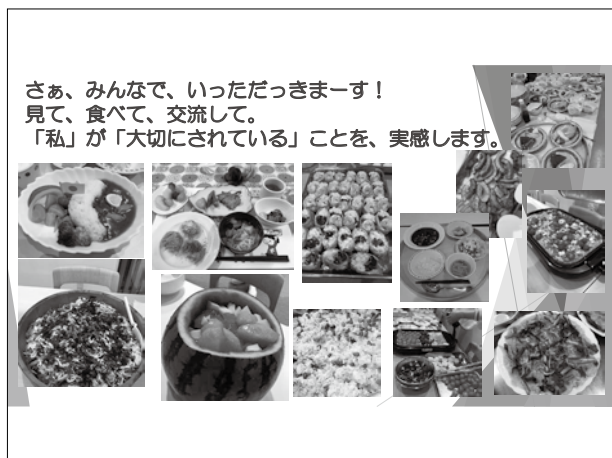
5

「子ども食堂」には、たくさんの子どもとおとなが集っています。多世代交流型の「共生食堂」、生活保護受給中の家庭・ひとり親家庭の子どもに限定した「ケア付食堂」などがあります。



※宮城県内の子ども食堂の様子

6



7



8

メモ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....